

当別の可能性を広げる

当

道の

駅 構想

別



当別の新たなランドマーク 道の駅構想

当別町が目指す「道の駅構想」*は、拠点となる農産物直売所の整備と地産地消の推進、町外から多くの人を呼び込む施設の建設を目的としています。

さらに、計画地周辺への企業や施設の誘致に向けた先導的施設とし、国道利用者への幅広いサービスの提供を通じ、町の産業活性化と雇用の創出を目指します。

当別の
食と観光に
出会える

- 「食」 食事の提供 ~ 食べて納得、当別の「新鮮さ」「おいしさ」
- 「買」 特産品販売 ~ 当別の「安全・安心」「こだわり」を販売
- 「休」 休める空間 ~ 気軽に立ち寄り、癒される場所の提供
- 「知」 情報の発信 ~ 当別の観光スポット・イベント情報を発信

※現在当別町では道の駅の建設に向けて、「当別町道の駅基本構想」を作成したところであり、今後は道の駅としての登録を目指し、執り進めていくものであります。

アクセスしやすい国道 337 号沿いに立地

施設の計画予定地である国道 337 号沿いは、札幌市中心部から車で 40 分程度の場所にあり、非常にアクセスに優れた立地となっています。札幌方面から国道 337 号を走り、札幌大橋を越えて当別町に入ると、ほどなく計画予定地が視界に入ります。

当別町の新たなランドマーク施設では、町の特産品の販売や情報発信などを行い、町内外からの集客を図ります。

また、計画地からは、当別町の 2 つの市街地である太美エリア（JR 石狩太美駅周辺のスウェーデンヒルズ・ロイズふと美工場など）、当別エリア（JR 石狩当別駅前のふれあい倉庫など）へのアクセスも容易です。

農村と都市とを結ぶ国道 337 号は、平成 27 年度の完成を目指して 4 車線化の工事が進められており、今後更なる交通量の増加が期待されます。将来的には、さまざまな企業や施設の集積を図り、複合化施設を形成して、更に人を呼び込み、活性化につなげるランドマークを目指しています。



「食」 食事の提供

テイクアウトコーナーで軽食の提供
レストランで食事の提供



「買」 特産品販売

野菜の販売
花卉の販売
当別町産農畜産物の加工品の販売
オリジナルグッズや工芸品の販売

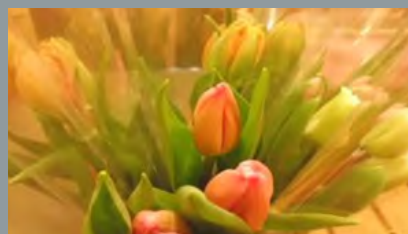


商品開発・加工

農商工連携による商品開発
農畜産物の二次加工

「休」 休める空間

エントランスに当別産の美しい花畑
くつろげるカフェ



「知」 情報の発信

まち歩きマップ
町内各店、観光スポットのパンフレット

※上記は道の駅構想で想定している内容です。

より高い付加価値を求めて

当別の安全安心な農産物をもっと身近に、年間を通じ利用可能な加工施設の設置や、2次加工分野の企業誘致を進め、農商工が連携した6次化に取り組み、付加価値を高めます。

■計画の概要

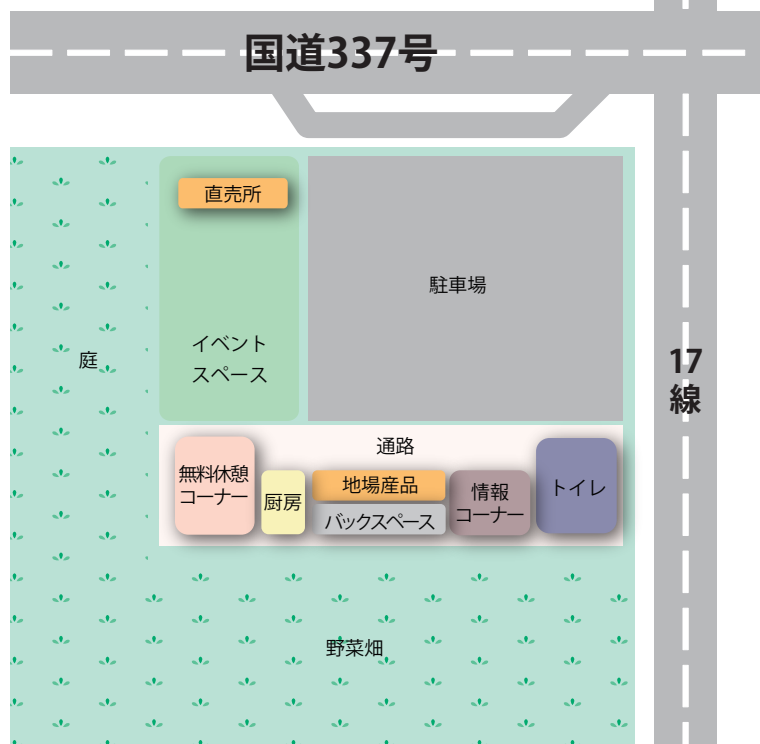
- ・建設主体 当別町
- ・計画地 国道337号、町道川下右岸線(17線)交差点付近

■主な施設

- ・農産物直売所
- ・地場産品コーナー
- ・無料休憩コーナー
- ・24時間トイレ
- ・地域情報コーナー
- ・道路情報コーナー

■スケジュール

- ・施設開業 平成28年(予定)



施設配置イメージ図

当別町の概要

大消費地札幌に隣接

当別町は、北海道最大の都市「札幌市」に隣接し、都心から車で40分、JRでは30分とアクセスに優れています。また、石狩湾新港と新千歳空港を結ぶ国道337号と、道北方面に通じる国道275号が交差する交通の要衝であります。

当別町の魅力をPRし、多くの人を呼び込むことを目的とする道の駅構想。その主な利用者として想定される30km圏内の人口は実に250万人を超えます。また、施設の建設を計画している国道337号の昼間12時間交通量は約2万台となっており、札幌市中心部から5km圏内の市内主要国道の交通量と同等と予想されます。

このように、都市近郊である当別町の立地は、今後の土地利用に大きな可能性を秘めています。





食の魅力にあふれるまち

当別町は農業が基幹産業のまちです。主要産物である米や麦をはじめ、かぼちゃ、にんじん、アスパラ、ブロッコリーなどの野菜、ゆりやカーネーションなどの花、豆類の生産が盛んです。

町内にはたくさんの農産物直売所があり、旬の新鮮野菜が気軽に手に入ることも大きな魅力です。道の駅構想の実現で、より多くの人にこの魅力をお届けできます。

また、地元農産物を使った「とうべつ Brandeli」商品など、多様な食資源を生かした商品開発の動きも活発です。

広大な自然

当別町は、面積 422.71km² の大きなまちで、南北に細長い形をしています。市街地（当別・太美市街）は南部に集中し、全体の 60% 程度を占める森林が北部に広がる、緑豊かなまちです。

全国でも最大規模の森林総合利用施設「道民の森」があり、森林とのふれあいを楽しむことができます。当別川の治水、利水などを目的として建設された当別ダムでは、自然の迫力を感じることができます。

また、夏の豊かな田園風景に加えて、美しい雪景色も当別町の魅力の一つとなっています。

歴史と交流から生まれたまちなみ

当別町は、北海道では数少ない土族による開拓が行われた歴史のある町です。古くからのまちなみに溶け込む界隈性が当別町の魅力の一つとなっています。

また、当別町は、昭和 50 年代に北欧のまちなみを模した美しい住宅地「スウェーデンヒルズ」の開発や、一般財団法人スウェーデン交流センターが設立され、昭和 62 年 10 月には、スウェーデン王国レクサンド市との国際姉妹都市の盟約を締結したことから、日本とスウェーデンの交流を活かした特色あるまちづくりを行っています。

このように、当別町は、昔ながらの商店街が形成している古きよきまちなみに加えて、北欧風の美しいまちなみの両方を持つ魅力あふれるまちです。

道の駅(構想)への挑戦

当別町へ人を呼び込み、まちの活性化を図ります

道の駅構想では、まず、地元農産物の販売拠点を整備することにより、町民が気軽に買える場所を確保し、その上で札幌など町外から多くの人を呼び込みます。

また、町内の農産物直売所、飲食店、観光スポット等の情報発信を行い、町内を周遊してもらうことで、地域の経済効果を高めます。

さらに施設周辺に、さまざまな企業や施設を集積し、より多くの人を呼び込み、町の産業の活性化と雇用の創出を図ります。

当別町の特長・魅力を最大限活用する4つの視点

1

札幌市に隣接する立地特性を生かす

札幌都心から当別町は車で40分、JRで30分と、少し足を延ばすと、当別町の大自然や田園風景を楽しむことができ、旬の新鮮野菜が手に入ります。当別町の魅力と、都市からのアクセスの良さを結びつけたPRによって当別町への来訪を促します。

2

地域資源の魅力向上 ～ターゲットを絞った積極的な情報発信～

男性よりも女性の方が、当別町への訪問意欲度が高く、美しい景観(花、スウェーデン風のまちなみ)や食資源に注目しています。消費シーンをリードする女性をターゲットとして、当別の資源の積極的かつ戦略的な情報発信を行います。

3

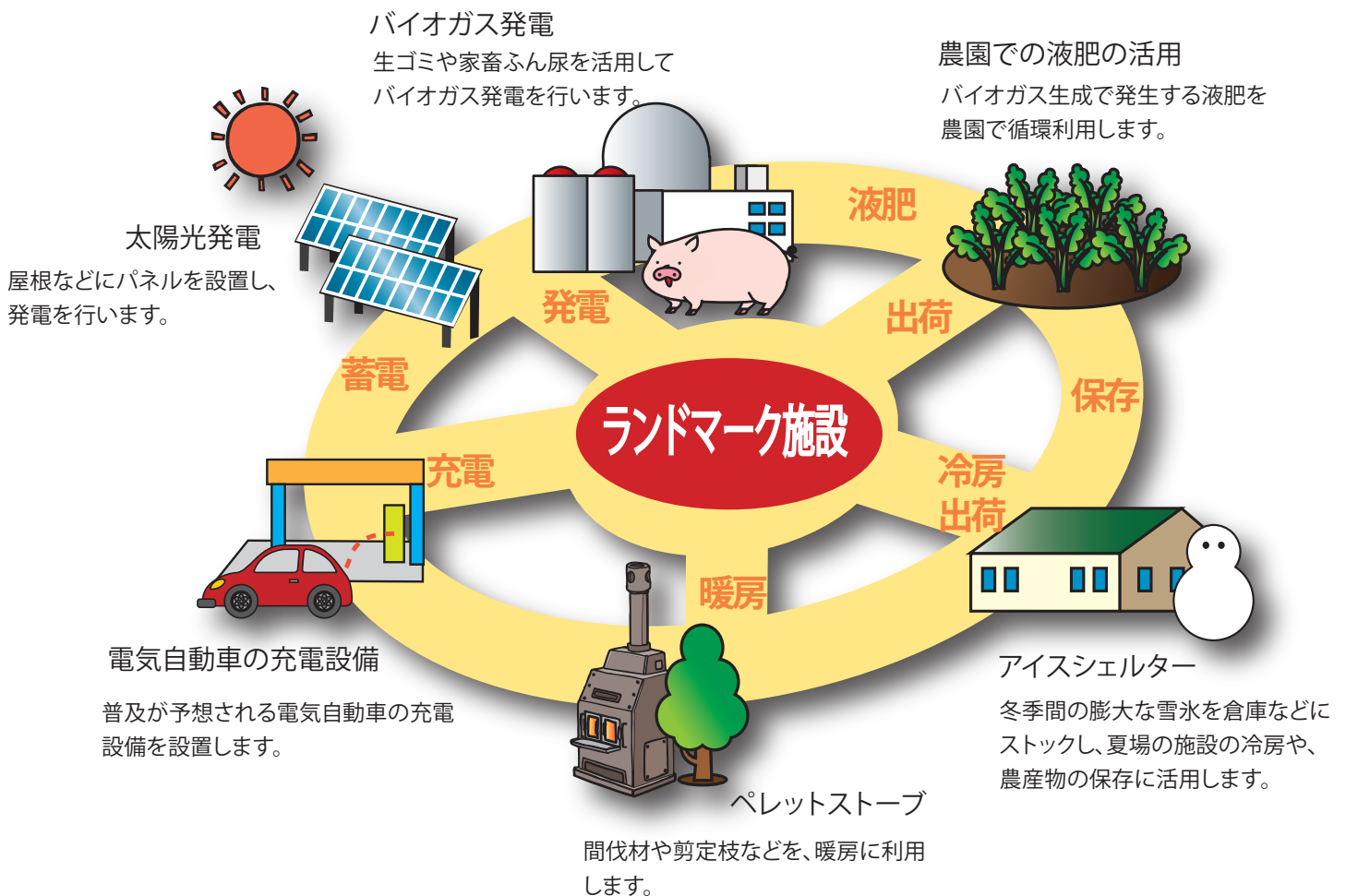
農商工連携による地域ブランドの育成

当別町の多様な産物と、地域イメージとの結びつきを強め、「当別らしさ」を生み出します。農産物の一次産品並びに加工食品の両面で、資源そのものの魅力をさらに高め、ターゲット・コンセプトを明確にした地域ブランドを育成します。



4 再生可能エネルギーへの挑戦

当別町の資源・特徴の一つでもある「雪」をはじめとした地域資源を活用し、資源の循環利用やエネルギーの地産地消を行う、環境負荷の少ない施設を目指します。



当別町で一緒に魅力を発信しませんか

当別町では、皆様と一緒にまちの魅力を発信する拠点づくりを目指しています。
施設への出店、商品開発プロジェクトなど、お気軽にご相談ください。

当別ふくろう湖

こんなことがしたい!

野菜/花卉などの販売

→ 農産物直売所での販売

農産加工品の販売

→ 地場産品コーナーでの販売

当別産品を用いた商品開発

→ 加工施設の提供、連携のサポート

バスツアーの企画

→ 連携・企画のサポート

→ ツアーの誘客・PR

地元食材を活用した

レストラン/カフェの出店

お問い合わせ先

当別町経済部プロジェクト推進室

〒061-0292 北海道石狩郡当別町白樺町58番地9

TEL (0133) 23-3767 FAX (0133) 23-3206

受付時間 8:45~17:15 (土日祝、年末年始12/31~1/5を除く)